

令和4年度第1回筑紫野市総合教育会議

○日 時

令和4年10月24日（月）午後3時01分から午後4時21分

○場 所

筑紫野市役所 1階多目的ホール

○出席委員（6名）

市長	藤田 陽三	教育長	上野 二三夫
教育委員	潮見 眞千子	教育委員	田代 邦夫
教育委員	牛川 由美	教育委員	久原 寛

○欠席委員（0名）

○出席説明員（8名）

教育部長	長澤 龍彦	健康福祉部長	森 えつ子
教育政策課長	吉開 和子	学校教育課長	高木 美智子
学校給食課長	倉掛 伸夫	生涯学習課長	檜木 理恵
文化・スポーツ振興課長	益 永 晃	文化財課長	小鹿野 亮

○議事日程

1. 開会のあいさつ
 - ・市長あいさつ
2. 報告「ICT教育」について
テーマ：「情報社会を生き抜き、心豊かに未来を切り開く力をつける教育について」
 - ①本市の現状について
 - ・教育委員会（長澤龍彦教育部長）
 - ②小中学校の取組について
 - ・山口小学校（税田雄二校長）
 - ・筑山中学校（岩切優子校長）
3. 指導・助言
講師：福岡県教育庁 福岡教育事務所 主幹指導主事 折居邦成 氏
4. 閉会のことば

会議録

○教育政策課長：ただいまより、令和4年度第1回筑紫野市総合教育会議を開会いたします。皆様、ご起立ください。

気をつけ。礼。直れ。ご着席ください。

本日の進行を務めさせていただきます教育政策課長の吉開和子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに本会議の主催者であります藤田陽三筑紫野市長から皆様に関会のご挨拶を申し上げます。藤田市長、お願いいたします。

○市長：先生方にはお忙しい中にこのように多くのご参集をいただき、このような総合教育会議ができますことをまず最初に御礼を申し上げます。

本日は、令和4年第1回筑紫野市総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆様、そして小中学校の校長先生、教頭先生におかれましてはご多用な中にご出席をいただき、誠にありがとうございます。また、日頃から本市の教育行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝、御礼を申し上げます。

さて、近年はコロナ禍を契機に社会のデジタル化が大きく進展をしておるところであります。教育についても例外でなく、一人一人に端末や学校のネット環境の整備が一気に進み、今後はこうした環境をベースとした新たな学びの実現に大きな転換が求められてくるものと思っております。

さて、昨年度の総合教育会議では、ICT教育の最重要な課題でありますところの情報モラル教育について皆さんと共に理解を深めることができたと思います。このことを踏まえた今年度の総合教育会議では、筑紫野市のICT教育のさらなる進捗状況を確認し、情報社会を生き抜き、心豊かに未来を切り開く力を持った子どもたちの育成をどのように推進していくのか、今後の方向性について皆さんと情報を共有してまいりたいと考えております。

本日は、山口小学校の税田校長先生、筑山中学校の岩切校長先生から学校のICT教育の現状をご報告していただきます。また、福岡教育事務所の主幹指導主事の折居先生から、今後のICT教育の進め方についてのご指導、ご助言をいただくこととしております。学校、また行政、それぞれのご経験の立場からアドバイスをいただけるものと大変期待をしているところでございます。

ここに入る前に少し折居先生と話すことができました。この筑紫野市の職員の動きのよさ、また、この庁舎そのもののすばらしさなどを大変にお褒めいただいたところでもございます。

しかしながら、やはり今の学校にITの個々に端末を与えて、しっかりと知・徳・体の知のほうは上達していると思いますが、特に大事なことは徳のところでございます。しっかりとした心

をつくり上げることも非常に大事なことであります。体は、確かにしっかりとなくなってきました。しかし、再度繰り返しますが、知・徳・体の徳の部分の現場ではしっかりと培っていただきたい。このようなことをお願い申し上げるところでございます。

結びに、短い時間ではありますが、本日の総合教育会議が大変実りのある有意義な会議となりますことを祈念いたしまして、私の挨拶といたします。本日はどうぞよろしく願いいたします。
○教育政策課長：藤田市長、ありがとうございました。

それではこれより、小中学校のICT教育について、テーマを「情報社会を生き抜き、心豊かに未来を切り開く力をつける教育について」といたしまして、お手元の次第に沿って進めさせていただきますと存じます。プロジェクターの準備をいたしますので、しばらくお待ちください。

(発表準備)

○教育政策課長：ここで再度皆様をお願いを申し上げます。

携帯電話の電源はお切りになるか、マナーモードに設定していただくようお願いいたします。また、会場内での写真撮影、録音、録画はご遠慮くださいますようお願いいたします。

お待たせいたしました。次第の2番、報告に入ります。

まず、初めに本市のICT教育の現状について、長澤龍彦教育部長より報告をさせていただきます。

長澤部長、お願いいたします。

○教育部長：失礼いたします。皆さん、こんにちは。教育部長の長澤龍彦です。

私からは本日の総合教育会議のテーマであります「情報社会を生き抜き、心豊かに未来を切り開く力をつける教育について」、このテーマに基づく本市のICT教育の現状について、四つの要点、項目にまとめましたので、前方のパワーポイントを使ってご報告、ご説明をさせていただきます。私の報告の後には、山口小学校と筑山中学校から活用状況等の紹介をしていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、一つ目の要点、本市のICT機器などの整備状況について報告いたします。

本市は、令和2年4月に国が示したICT教育における整備スケジュールの加速による学びの保障の方針決定後に藤田市長が直ちに英断され、児童、生徒のタブレット9,100台をはじめネットワーク環境などの整備を行い、令和3年度4月からICT教育を市内の小中学校で一斉にスタートいたしました。また、タブレットを活用した授業がさらに円滑に進められるよう、各小中学校の通信ネットワーク環境の強化を現在行っております。このように、児童生徒のICT教育環境の充実に積極的に取り組んでいただいていることに、教育委員会として心よりお礼を申し上げます。ありがとうございます。

次に、二つ目の要点、筑紫野市ICT活用推進ハンドブックについて報告いたします。

一つ目の要点で説明しましたICT機器などの整備と並行して、教育委員会では令和3年度から令和4年度にかけてICT活用推進ハンドブックを作成し、各学校へ配付を行いました。

このハンドブックは、小中学校ICT活用推進計画や情報モラル教育等ガイドラインなど、ご覧のとおり、六つの項目で構成しており、本市のICT教育を活用、推進していくための基盤となるものであります。

次に、三つ目の要点、令和4年度、本年度の本市の具体的な取組、四つの項目について報告いたします。

一つ目の項目は、ICT活用推進計画の具現化を図るため、本年度、教育委員会にICT活用教育担当指導主事を2名採用することとしました。現在は教員経験者1名を任用し、この計画を進めており、今後できるだけ早い時期にさらなる体制の強化を図りたいと考えております。

二つ目の項目は、定例校長会での取組です。本年度は、毎月の定例校長会にてICT活用教育の充実を年間のテーマに掲げ、各学校から活用報告などを行っていただいております。この取組で校長会において情報を共有し、学校間でのICT教育に対する意識や活用方法、スキルに格差が生じないように、本市の学校教育の質の向上、スキルアップを目的として実施しております。

三つ目の項目は、教育委員研修会を開催いたしました。本年度のICT活用教育の現状などについて教育委員の皆様にご説明し、意見交換を行い、理解を深めることができました。教育委員の皆様からの情報モラル教育に関する貴重なご意見などについては、今後につなげ、生かしてまいりたいと考えております。

四つ目の項目は、ICT活用教育担当指導主事を中心に、小中学校16校のICT活用教育の現場視察訪問を6月より実施しました。全ての学校を視察して明らかになった課題等を整理し、ICT機器の有効で効果的な利活用について研究を進めております。

次に、四つ目の要点、令和4年度GIGAスクール構想（ICT活用教育）実施計画について、報告いたします。

こちらの実施計画は、本年度、教育委員会で作成したもので、ご覧のとおり五つの重点目標を設定しております。各学校では既に校務分掌への位置づけを行っていただくなど、この五つの重点目標に向けて主体的に工夫をしながら進めていただいております。

こちらの表は、今年度の市内小中学校のICT教育授業の研修会の計画表であります。実施済みの学校やこれから計画している学校もありますが、まずは、今後、各学校の研修会の内容を集約し、ICT教育の授業改善が図られるように教育委員会で指導・助言などの支援を行っていきたいと考えております。

最後に、ICT教育の現状について、これまでに報告をいたしました四つの要点を踏まえた本日のテーマであります「情報社会を生き抜き、心豊かに未来を切り開く力をつける教育について」

のまとめをさせていただきます。

これからの情報社会で本市の子どもたちが夢に向かってチャレンジし、心豊かに未来を切り開いていくためには、これからの学校教育において、ICT教育の学びの中で情報モラル教育の充実を図りながら情報活用能力を効果的かつ有意義に身につけることが必要不可欠であると考えております。

そのためには、子どもたちをご指導いただく学校現場、先生方へのサポート、支援も重要となります。このことから、今後も総合教育会議主催者である市長と教育委員会、学校とがしっかり連携を図り、一体一丸となってICT教育の推進に取り組んでまいりますので何とぞよろしくお願いいたします。

以上で、私からのICT教育の現状についての報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○教育政策課長：長澤部長、ありがとうございました。

続きまして、ICT機器を活用した小中学校の教育の取組について、山口小学校校長、税田雄二先生、筑山中学校校長、岩切優子先生よりご報告をいただきます。それでは、初めに山口小学校、税田雄二校長先生、よろしくお願いいたします。

○山口小学校校長：失礼いたします。山口小学校、税田です。よろしくお願いいたします。

日頃より藤田市長様、上野教育長様、教育委員の皆様、大変お世話になっております。また、GIGAスクール構想に基づき、筑紫野市内の全児童生徒にタブレットを配布していただき、ありがとうございました。

タブレットをはじめとするICT機器を整備していただいたおかげで、学校では大きな変化が見られるようになりました。例えば、体調不良やコロナによる出席停止の場合も、家庭で授業の様子を見たり、参加したりできるようになりました。また、タブレットを使うと、画面上で資料を配ったり集めたり、アンケートを取ってすぐに結果を見たりできるようになりました。

また、子どもが自分のスピードとやり方で学べる場が増え、試行錯誤して自分の考えをまとめ、ノートの写真を撮ったり、説明の動画を録画したりします。提出させて、学習のまとめや授業の評価に使います。また、大型モニターを使うとタブレットの内容も共有できます。さらには、オンラインで特別支援学級の3クラスとつなぎ、自立活動としてクイズ大会もできました。

子どもがタブレットを使うことでやる気が引き出され、教材に繰り返し働きかけたり、友達や先生、地域の人とコミュニケーションが盛んになったりするようになりました。

これは、本校のタブレットの活用状況です。全国学力・学習状況調査の質問紙法の集計では、本校は1日2時間以上学習に使っている割合が全国平均を上回っております。

校内研修でGIGAスクール構想について学び、タブレットの使い方、ロイロノートスクール

の使い方などの研修を行いました。

そして、子どもが早くタブレットに慣れるように教科書のQRコードを読み取り、動画の資料を見たり、外に持ち出して写真を撮ったり、国語科で毎時間読み取りのまとめとして音読の様子を録画したり、体育科でモデルとなる動きを動画で見たり、理科で実験結果をグラフ化したりなど、子どもや教職員がタブレットが使えるチャンスを見つけ、より効果的な活用を目指しています。

また、未然に事故を防ぐために、モラル向上やスマホ依存、SNSによる被害の防止のための取組も並行して進めております。

本校では、昨年度、様々な教科でタブレットを活用した授業づくりをしました。この事例は、5年生国語科の説明文の学習でデジタル教科書を使っています。授業の初めにめあてと資料の確認をした後、教材文に書き込みをし、切り取り、線で結んで自分の考えをまとめました。子どもたちは自分の考えを写真に撮って提出し、学習のまとめに生かしました。

算数科でも、台形の面積を求める学習で、授業の初めに前時までに学習した面積の求め方を動画で振り返り、見直しを持ち、自分の考えを書き込み、台形の面積の求め方を説明します。その様子を録画し、提出した動画を基に台形の面積を求める公式を作りました。

そして、本校では本年度、ICTを活用した授業づくりをさらに焦点化し、算数科で学力向上につながる使い方を模索しています。先ほどご紹介しました5年生算数科面積の学習に改善を加え、見方、考え方ごとにカードを色分けするなどして、本年度授業に臨みました。その様子をご覧ください。

(動画視聴)

○山口小学校校長：この後、三つの見方、考え方を共有し、学習をまとめました。

タブレットを使った子どもたちの感想です。

○児童：タブレットが使えるようになったおかげで、もっと楽しく学習ができるようになりました。算数の面積の学習では、ロイロノートを使うことで図形に色をつけて線が引きやすかったり、やり直しがしやすく、考えがまとめやすかったです。

社会の学習では、調べ学習で気になったことはすぐインターネットで調べることができたり、写真や画像を動画で見たりすることができました。

これからもタブレットをたくさん使って学習をし、たくさんのことを学んでいきます。

○児童：去年からタブレットを使い始めてよかったと思う部分がいっぱいあります。その中でも特に算数の面積の授業では、ロイロノートを使うとみんなの考えが分かり、解くヒントをもらったり、いろいろな解き方をすることができました。

図工の授業では、タブレットを使って写真を撮ることで、自分が気に入った写真で絵を描くこ

とができ、イメージがしやすくなりました。

これからもタブレットをどんどん使って、新しいことに挑戦してみたいと思います。

(動画終了)

○山口小学校校長：最後に、決意表明をして終わります。

㊦知育・徳育・体育のバランスよく、㊧繰り返し、失敗を恐れず、㊨試行錯誤しながら、子どもが㊩伸び伸びと情報社会を生き抜く力をつける㊪ハートのあるICT教育を㊫日々推進します。㊬友達とともに成長し、筑紫野の子どもの㊭強みとなるように、ICT推進でも筑紫野は一つという構えで取り組んでいきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

○教育政策課長：税田校長先生、ありがとうございました。

続きまして、筑山中学校、岩切優子校長先生よりお願いいたします。

○筑山中学校校長：失礼いたします。筑山中学校の岩切と申します。本日はどうぞよろしく願いいたします。

報告に先立ちまして、まずは藤田市長様をはじめ、教育委員会教育委員様、日頃より学校教育に対しましてご理解とご配慮をいただきありがとうございます。

本日は、ICT教育の推進について本校の取組を通じてご報告をいたします。どうぞよろしく願いいたします。

筑紫野市の小中学校16校では、筑紫野市の未来を創る「ひかり輝く子ども」の育成を目指し、日々教育活動に取り組んでいます。筑紫野市の未来を創る「ひかり輝く子ども」とは、知・徳・体を調和的に備えた児童生徒であり、たくましくしなやかに生きる資質・能力を備えた子どものことです。そのような子どもを育てるために、各学校で居場所と絆がある魅力的な学校、誰もが学びやすい包括的な学校、学力・体力形成に効果的な学校づくりに取り組んでいるところです。

そして、これらの学校像を具現化するために八つの重点的な取組を行っています。その重点のうち重点7に、1人1台のパソコンを活用した、個別に最適化された学びの実践というものがあります。

筑紫野市では、令和2年度には生徒1人に1台のタブレットを購入していただきました。今日は、そのタブレットを使って、筑紫野市の未来を創るひかり輝く子どもになるために子どもたちがどのような学習を行っているのかをご報告したいと思います。

本校では、教育目標を「共生社会の創造を担い、社会の発展に貢献する知・徳・体の調和のとれた生徒の育成 地域・家庭とともに取り組む学校教育の推進」としました。本校は地域や保護者に本校のOB、OGの方が数多くいらっしゃいます。皆さん、本校への愛と期待が大きく、学校に多大な支援をしてくださいます。そういった大人を見ながら育つということは、子どもにと

って将来目指すべきモデルが身近にあるということになります。子どもは学校だけでなく、地域、家庭とともに身近な大人が範を示しながら導いていくことが大切だと感じています。

この教育目標を受け、本校では子ども自身が学ぶことの楽しさを味わいながら、自らの成長を実感できること、自分や他者を大切な存在だと感じ、優しい気持ちでつながり合うこと、心身ともに健やかで毎日の生活に前向きに取り組むことを目指して教育活動を行っています。

本校は、総合的な学習の時間に、毎年1年生でまちづくり学習を行っています。筑紫野市の人権都市宣言を受けて、まず自分たちの住んでいる地域ではどのようなことを大事にし、どのような取組を行っているのかを地域に出向き、区長様や公民館館長様などに話をさせていただきます。そして、中学生である自分は地域の中で何ができるのかを考え、それをまとめ、区長様や公民館館長様に聞いていただく発表会を催し、区長様方から評価をさせていただきます。この学習を通じて、身の回りで起きていることに気づき、社会に関心を持ち、地域に貢献する資質能力の育成につながることを目的としています。

これは発表会の様子です。各区長様方をゲストとしてお招きし、自分たちが地域でできそうなことを提案します。地域の皆様にその場で評価していただくことが子どもたちにとって大きな自信につながっています。

しかし、コロナ禍になり、各地域に出向く調べ学習も発表会も開催が難しくなりました。そこで、まず区長様方へ質問状という形で子どもたちから手紙を出し、それに手紙やファクスでお答えいただきました。そして、生徒たちはそれを基に自分たちの提案を各自タブレットを使ってプレゼンテーションを作成し、それをDVDにして区長様に郵送しました。

実際に生徒が作ったプレゼンテーションをご覧ください。

(動画視聴)

○生徒：今から美咲地区の発表を始めます。

私たちのテーマは、「高齢者の安全のために」です。このテーマにした理由を説明するために美咲地区の現状について話します。

美咲のよいところは、宝満川河川敷や周辺の環境がきれいなところ。二十数年前、あらゆる差別をなくすために子どもから高齢者までみんなでまちづくりを行い、地域を大切にしていることです。

まちづくりの際、大切にしたのは、人と人がつながることを大切にしてきました。その取組の結果、隣近所の交流が活発であったり、月に1回みんなで清掃したり、みんなで餅をついて配ったり、年に1回、美咲の人たちを中心にカヌー大会を開いて交流を広げてきました。

○生徒：しかし、課題もあります。今の美咲の課題は、子どもの数が減っていることや高齢者だけで住む家が多く、安心して暮らすことができないことや木の枝やごみが多く、通りにくいとい

うことがあるので、私たちに何かできることはないかと思って、私たちはこの「高齢者の安全のために」というテーマにしました。

区長さんやまちづくり運営委員さんから聞いた高齢者の方が困っていることは、次のとおりです。店が遠いこと、若い人が住んでいないから相談することができないこと、コロナで外出がしづらくなり人との交流が減ったことです。

○生徒：そこで、私たちにできることは、高齢者に声をかけること、お便りを作って高齢者に配り、返事をもらいながら、交流を深めること、転ばないように道をきれいにすることなどがありました。

区長さんの方のお願いとして、まちづくりの学習を通していろいろなまちの取組を学んで、自分たちのまちや学校のよさにたくさん気づいてほしいなどという願いがあります。その願いに応えられるように今私たちにできることをしていきたいです。

最後に、みんなで誰もが大切にされるまちをつくっていきましょう。

(動画終了)

○筑山中学校校長：区長様たちには、電話やお手紙で評価をしていただきました。快適に生活できるように周囲の大人がしてくれていることを知り、中学生の自分にもできることがあると気づくことができる貴重な機会になりました。直接お話することは難しい時期でも、タブレットを活用することで子どもたちが地域の一員としての学習を進めることができ、子どもたちにとって大きな自信につながりました。

また、各教科においても、タブレットを使うことで、コロナ禍でも学習活動を進めることができます。

これは、保健体育の授業におけるマット運動の様子です。一人の生徒の演技を録画し、班全員でその動画を見て課題を見つけ、改善につなぐことができます。

左の写真は、音楽の授業において自分の歌唱を録画し、画面上で生徒同士の相互評価を受けている様子です。

右の写真は、英語の授業において、英語での対話活動を録画している様子です。

対面による対話活動は難しくても、タブレットを使い、他者の意見を聞き、自分の考えを修正する等の対話活動ができます。また、動画撮影を使い、その動画を見て他者からアドバイスをもらうことで、自分のパフォーマンスの課題に気づき、改善につなぐ等の共同的な学びを推進することができます。

一方で、SNSによるトラブルも頻発しています。各学校においてもSNS等の使い方など、情報モラルについての学習会も進めているところです。

これからも生徒同士、生徒と大人が直接触れ合うことを基本に、タブレットをタイミングに応

じて活用することで子どもたちの学習を滞りなく進めることとともに、豊かな人間関係をつくり、筑紫野市の未来をつくる基礎を培ってまいりたいと思います。

以上で終わります。本日はありがとうございました。

○教育政策課長：岩切校長先生、ご報告ありがとうございました。

続きまして、次第の3番、福岡県教育庁福岡教育事務所の主幹指導主事、折居邦成先生に、本日は「ICT教育を活用した情報社会を生き抜き、心豊かに未来を切り開く力をつける教育について」と題しまして、ご指導、ご助言をいただきます。

折居先生、よろしくお願いいたします。

それでは、折居邦成先生のご紹介をさせていただきます。

折居先生は篠栗町の中学校で教員をスタートされ、平成23年に福岡教育事務所指導主事、平成27年に新宮中学校の教頭、平成29年に福岡教育事務所主任指導主事、平成31年に新宮東中学校に校長で着任され、本年、令和4年4月からは再び福岡教育事務所において主幹指導主事として福岡教育事務所管内の小中学校でご指導、ご助言に当たっておられます。

それでは、折居先生、よろしくお願いいたします。

○講師：失礼いたします。福岡教育事務所の折居でございます。

まず、藤田市長様をはじめ筑紫野市の皆様におかれましては、本日の総合教育会議、そしてこのすばらしい市庁舎にお招きいただき、本当にありがとうございます。そして何より、市制50周年、誠にめでとうございます。筑紫野市のますますのご発展を心より祈念いたしております。

今、紹介にありました、昨年度まで3年間、新宮東中学校というところで校長をさせていただいておりました。そんなに職員は多くはないのですが、実は二人、この筑紫野市に居を構えまして、今、新宮まで通っております。ひょっとしたらいずれこちらのほうでお世話になるかもしれません。

数百年前からこの筑紫野市というのは交通の要所で、九州どこに行くにもこの筑紫野を通らないといけない。逆に、福岡から京都や関東に向かうにも必ずここを通らなければいけない。人、物、事が必ずここを通る、そういう要所であったと考えております。

そして、今でも本当に自然も豊かで、歴史も豊かで、そして交通の便もよく、生活がしやすい。そして、何よりこの市役所ですけど、本当に広々として美しい。ただ、中に入っても非常に防災のことにも細部にわたって配慮されてありますし、ワンストップで、市民の方がこちらに来られたらとにかく1か所で全ての手続が完了するという、本当に市民目線に立たれたシンボリックな市庁舎だなとつくづく感じております。うちの職員が二人この筑紫野市に住みたいと思って家を建てた理由が本当によく分かります。

総務省から「平成27年度版情報通信白書」というのが出されています。これは毎年出されてい

るものなんですけれども、その27年度版の中に1961年1月号——1961年と申しますと、昭和36年です。私が昭和40年生まれ、1965年生まれですので、そのちょっと前になるんですけども、「たのしい四年生」という雑誌の中に、このような、未来の東京、100年後の東京というのが描かれていたということです。

60年代と申しますと、子ども用の雑誌とかアニメとかテレビは、半分ぐらいはこういうSF物——当時は空想科学物と呼ばれていたらしいんですが、この当時書かれていた、例えばこういうドーム型野球場とか、高層ビルの上のヘリポートみたいなものであるとか、動く通路、恐らく世界いろんなところの情報をこのモニターで見ることができるというですね。こうやって見ると、多くのことが今実現しているなと思います。

私が生まれた1965年には、この「スーパージェッター」という番組が始まったり、昭和42年、1967年には「ウルトラセブン」の放映が始まったんですけど、子どもの頃こういうおもちゃでよく遊んでいた記憶があって、おうちの中にごろごろしていたんですけど、今まさにもうこういうものが本当に実用化されて、時計端末で通話したりすることができる。

とかくICTと申しますと、若い方々の物、若い方々がやる物という、特に学校の中ではそういうことがよく言われるんですけど、実はこの1960年代に子どもの頃を過ごした我々にとってみると、このような社会というのは憧れ、夢、ひょっとしたら目指してきたものではなかったのかなと今改めて感じているところがございます。

それでは、まず最初に、実践報告、お二人の校長、本当にお疲れさまでした。

実は先日、各学校に参らせていただきまして、山口小学校と筑山中学校を拝見させていただいたんですが、共通点に幾つか気づきました。

これは山口小の場面なんですけれども、タブレットを置いてノートをとっている。先ほどのお二人の校長先生の発表の中にもたくさんありましたが、この二つを本当に上手に使ってあるなと思いました。どちらの教室をのぞいても。

今まではこういうプリントという形で先生方が配付してあったものをタブレットに変えて、ペーパーレスにして、そしてノートはきちっと自分で書いてまとめるという、中学校でも同じような姿がありました。

とかくデジタルかアナログかみたいな、二者択一なお話がよくされるんですけど、やはりハイブリッドであることがすごく重要ななと思っています。デジタルもだし、アナログもだし、お互いのよいところをこれから取捨選択しながら使っていく、合わせていくということが本当に大事になるんだろうと思いますし、実際それが行われているなと思いました。

また、それぞれの教室に入ると、とても温かい雰囲気がありました。そして、子どもたちが発している一つ一つの言葉がとっても優しいんですね。

筑紫野市の学校は人権をととても大切にしております。子どもたちの先ほどから出ています徳の部分、心の教育が本当に行き渡っているなというのをつくづく感じました。これは中学校3年生の教室なんですけれども、こんなさりげない姿からも感じることはできないのではないかなと思っています。

そして、本当にこれは重要なポイントですが、今こういうタブレットを使えば、AIドリルなどを使うことも多いんですけども、とにかく教室というのは協働の場、せつかく子どもたちが集まっているんだから、たとえタブレットがあったとしてもそれを介してみんなでやりましょうというような姿が随所に見られました。「集まりなさい」じゃないんですよ。自然と、実はこれは子どもたちが。そうしたいから実はそうやって集まる。実は今、我々教育事務所はこういう姿を目指しています。「話し合いなさい」で話し合うのではなくて、話し合いたいから話し合う、こんな姿が本当に随所で見られました。

山口小学校の先ほどあったこの若い先生の授業なんですけども、必ず2クラスあるうちのもう一つはすぐベテランの先生、そしてもう一方がこういう若い先生。ベテランの先生が学級経営の仕方とか、板書の仕方とかいろいろ教える。そして、この若い先生はこういうICTをできるだけベテランの先生に教える。本当にうまくOJT、メンター、メンティの関係を上手につくってあるなと思いましたし、特にこの先生は本当に子どもの話をよく聞いてあるなと思いました。

中学校のこの場面ですが、これは英語の授業なんですけれども、「即座に調べる」と書いていますが、実はこれは英語の授業で「UK」という単語が出てきたんですね。「UKって何」とか言いながら即座に調べているんですね。実は我々の学生の頃ってこれができなかったんですね。先生から当てられて、分からないから怒られるみたいな。でも、こうやって即座に調べる。調べたいから調べる。ああ、何だ、イギリスのことかみたいなの。

実は、こういう使い方、即座に何か自分が必要だと、例えばまとめたいと思ったらこのアプリケーションを使う、調べたいと思ったらこれを使う、友達とやり取りしたいと思ったらこれを使う、そういうのが本当に理想的かなと思います。そんな姿がたくさん見られました。

藤田市長様がお示しされてあるマニフェストを拝見させていただいたんですが、この赤で書いてある、例えば「男女共同参画」であったり「人権尊重」であったり、それから「心豊かに」とか、「知育・徳育・体育」「青少年の健全育成」とか、本当にそれぞれの教室で行われているなとも思いましたし、何よりもこの写真にあるように、協働によるまちづくりを中学生や小学生も実際行っているというところも拝見することができました。

今日の一番のテーマである情報モラル教育についてですが、昨年もこの場で高野先生、今の高野副所長がお話しされてあると思うんですが、情報モラル教育というのは、情報社会で倫理、道徳意識を育てる教育と定義づける——これは文科省の定義です。それから恐らくデジタル・シテ

イズンシップ教育というのが今後出てきますよと。これ、実はまだ文科省は定義していません。多分、次の学習指導要領に入ってくると思います。今の定義では、情報社会のよき担い手を育てる教育。シティズンシップというのは公民権とか市民権と表しますので、そういう教育。

今、学校現場とかで時々言われるのは、情報モラル教育はよくなかったんで、デジタル・シティズンシップに変えましょうみたいなことが言われていることがあるんですね。これは何が違うのかということをお今日実は明らかに言わせていただければなと思っています。

特に、やっぱり私もそうなんです。私も去年まで校長をしながら、スマホ依存は駄目ですよ、デジタルは危ないから気をつけましょう。しない、触れない、少し遠ざけましょうみたいな、そんな教育に終始していたんじゃないかなと、自分自身ちょっと反省しているところがあります。

ただ、筑紫野市さんはそうではないと思います。実は、これが情報モラル教育の文科省が定義する内容なんですけども、2番の一つ目にあるようなこういう細かいところに少しポイントを当て過ぎていたのかなという気がしています。

デジタル・シティズンシップはこんなふうな形で内容とか領域が分けられているんですが、まだ文科省は定義はしておりません。例えば、情報モラル教育でいうこの部分は、赤のところですね、デジタル・シティズンシップ教育でのあの部分。情報モラル教育でいうこの部分は、デジタル・シティズンシップの教育では、あの青い部分。

そして何より、ここがやっぱり自分自身ちょっと欠けてたと思うのが3番目です。公共的なネットワーク社会の構築。これはデジタル・シティズンシップ教育でいうところのインクルージョンであったりとか、倫理と共感、健康と幸福、ウェルビーイングなどに通じるところが十分あるなと思っています。

なので、これも先ほどから申しますとおり、情報モラル教育か、デジタル・シティズンシップ教育かではなくて、情報モラル教育もデジタル・シティズンシップ教育もというふうに捉えたらいいのではないかなと思っています。重なるところがとてもたくさんあります。特に内容の3番目に、もう少し我々はしっかり目を向けたほうがいいのかなと思っています。

「主体性の育成」というタイトルをつけさせていただいておりますが、福岡教育事務所といたしましては、全国学力・学習状況調査の、下に「39」と書いてあります、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」、これが学力と最も相関の高い質問項目になります。最も相関の高い質問項目は、いわゆる児童生徒の主体的な学びです。ただ、残念ながら、管内の小中学校は全国平均を上回ったことが実は一度もないんです。ここを高めれば、管内の子どもたちはもっと伸びると思っています。

さらには、9番の「最後までやり抜く」、10番の「挑戦する」、こういうところも学力ととても強い相関があります。こんなところを高めていければ、自然と子どもたちの学力が高まってい

くと教育事務所としては捉えています。

そこで、児童生徒が主体的に書くような、そして、今日のテーマである、児童生徒が主体的にICTを。先ほど言いました。「集まりなさい」と言って集まっているわけではない。「調べなさい」と言って調べているわけではない。子どもが自らそうしたいと思っやっている。あんな姿をもっともっと増やしていくことができれば、自然と子どもたちの力はつく。子どもたちの学力は伸びる。

一番上にありますが、「教師が教える」から「子どもが主体的に学ぶ」を重視する授業改善の方向で、今後3年間は教育事務所としては皆様にご提案させていただきたいと思っています。

ICTのところにあります、32、33、34の子どもたちの回答、ぜひこういうところも全国よりも上に行くようになっていくと、自然と子どもたちの学力も高まっていくと確信しています。

上が従来の情報モラル教育です。私はよくやっていたような思いがします。ある中学生がいて、SNSでちょっと失敗してしまった。トラブルになった。そんなモデル動画があつて、さあ、皆さんどうしますかって子どもたちが考えて、これはやめておこう、あれはやめておこうというような授業。それはとても大事なことなんですけども、下にありますとおり、デジタル・シティズンシップ教育の、デジタルを上手に使いこなしませんか、そして、例えばインクルージョンであるとか、人々の幸せや共感とか、健康と幸福に、こんなものにデジタルを役立てていきませんかというような視点を追加していくと、情報モラル教育がさらにいいものになるのではないかなと思っています。

特にこの部分ですね。特に、今改めて、子どもが自ら主体的に心を磨くとか、知識を磨く、こういうところを大切にしていき、さらに子どもが主体的にデジタルに関わる。大人からこうなさい、ああしなさいと言われるのではなく、主体的に関わることで、公共的なネットワーク社会を構築——つまり3番ですね。先ほどの3番になりますが、つまりこれは今日のテーマである「心豊かに未来を切り開く力」につながっていくものであると確信をしているところでございます。

最後になりますが、昨年度まで私がおりました新宮東中学校は、3年前に新宮町が防災拠点として設立いただいた中学校でした。なので、防災教育をととても大事にしておりました。市長様の真ん中にあります共助社会づくり、自助、共助、公助社会の構築に向けたとか、支え合い助け合う、誰もが安心して暮らせる地域社会とか、実はこれを学校経営の柱にしておったんですね。

もし、私がこの筑紫野市で校長をさせていただいたら、ぜひこんなところでまちづくりに寄与させていただきたいなとも思いますし、例えば宝満山の保存活用とか、環境保全、省エネとか、学校教育を通してまちづくりに貢献できる場所はたくさんあるなと思っています。

そして、今日は何よりも主体的にICTを活用し、ネットワーク社会を構築する。つまり心豊

かに未来を切り開く力を育てることで、筑紫野市のまちづくりに貢献できればと思っています。

先ほどお示しいたしました総務省の資料の中に、1968年——ですので昭和43年に、小松左京さん——「日本沈没」とかを小説で書いた、この後に大ヒットになるんですが、SF小説「空中都市008アオゾラ市のものがたり」というのが実は載っておりました。1969年には「ひょっこりひょうたん島」の後番組としてテレビでも放映されているみたいなんです。都市を管理する中央電子脳の一番大切なところがばい菌にやられて、都市が混乱する様子なども描かれています。これは今で言うコンピューターウイルスでしょうか。表紙がこのような表紙になります。

今回使用させていただいたこの「情報通信白書」は総務省のほうに使用していいよと許諾を得ております。この書物の一番最初に、こんな文面があります。真ん中よりちょっと下ですね。

「これは21世紀のお話です。そのころの世界はきっとすばらしいものになっているでしょう。町はきれいになり、すばらしいビルがたち、町を歩いても自動車にひかれることもなく、工場のけむりや排気ガスで、空がよごれているようなこともなく、大きな町の空は、いつもあおあおとすみわたっているでしょう」「それから世界じゅうで、戦争はなくなり、病気もほとんどすぐなおるようになり、まずしい人たちもなくなっているでしょう」という文面から始まる物語になっています。

21世紀も、もう5分の1が終わりました。この21世紀の後半は今の小中学生に委ねなければいけないんですよ。なので、まずはこういう社会に少しでも近づけるよう、今の我々がしっかりまずは頑張っていきたいなと思いますし、そして委ねる子どもたちにたくさんの力をつけていきたいなと思います。

情報モラル教育を通して子どもが主体的にデジタルに関わり、公共的なネットワーク社会を構築する、つまり心豊かに未来を切り開く。校長先生のお言葉をお借りすれば、優しくてハートのある、そんな筑紫野市民を育てていけたらと思っています。

本日はどうもありがとうございました。以上です。

○教育政策課長：折居先生、本日は貴重なご助言を誠にありがとうございました。

皆様、感謝の意を込めて、いま一度拍手をお願いいたします。

それでは、お時間の都合もごさいますので、教育委員を代表して、潮見眞千子委員に本会議を受けてのご意見、ご感想などよろしく願いいたします。

○潮見教育委員：今日はどうもありがとうございました。貴重なお話を伺いました。先生方もありがとうございました。

では、座ってお話しさせていただきます。

コロナ禍という中で、急速に学校教育でのオンライン化の導入が進められました。現場が物すごく混乱しているんじゃないかなと思って、去年、1年前に研修を受けたときには随分心配いた

しましたけども、先日、学校訪問で筑紫野市の二日市小学校と筑紫東小学校のほうを見せていただきました。

今日、先生たちの二つの学校の発表もお聞きしまして、上手に実際にタブレットを使って指導されている先生方や、また、それを使っている子どもたちの姿、一方的に授業を受けるだけではなくて、きちんとそれを使ってほかの子どもたちと交流している姿などが見られ、今、学校教育がとても変わっているんだなというのを実感して帰ってきたところです。

ただ、心配事が幾つかありまして、一つは、子どもたちの環境ですね。ネット環境が家庭とか地域のところで随分格差があるんじゃないかなという現実。その辺で、今度はそれが教育の格差につながらないかということをご心配しております。

そして、先ほど折居先生の中でもお話がありましたけれども、危険を予測する力、それとそれから逃れる力というのが、実際どれだけ子どもたちに身につけているのかなと。それが今先生がお話しされたデジタル・シティズンシップ教育ですかね、そこのところが、さらに子どもたちにそういった教育を充実させていく必要があるんじゃないかなと感じております。

これからこのICTというのは、私たちも本当は避けて通りたいところではあるんですけど、避けられない、欠かせない社会になっていくんだろうと、なっていくというか、なっているんだろうと思います。

それで、先日も教育委員の研修があったときに、筑紫野市のほうでは、できないからしないというのではなくて、できることからやっつけていこうという、気長に一つ一つ課題を解決しながら、教育を推進していきたいというお話も伺いました。そこのところを本当に今から私たち教育委員も何の力になるか分かりませんが、力が出せるかも分かりませんが、支援していけたらいいなと考えております。

本当に今日はどうもありがとうございました。

○教育政策課長：潮見委員、貴重なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

○教育政策課長：これより閉会行事に移らせていただきます。

それでは、謝辞及び閉会の言葉を筑紫野市教育委員会、上野二三夫教育長が申し上げます。

○教育長：皆さん、こんにちは。教育長の上野でございます。

私のほうから、今日の会議のまとめ、謝辞をさせていただきたいと思います。

まず初めに、本市の藤田市長が主催者として開催していただきました本日の総合教育会議ですが、大変お忙しい中に、藤田市長をはじめ、本日指導・助言いただきました福岡教育事務所の折居主幹指導主事、本市の教育委員の皆様、また各小中学校の管理職の皆様、そして傍聴においでの皆様方、多くの方々のご出席をいただき、本年度第1回目の総合教育会議が開催できましたことに厚くお礼を申し上げます。

本日は、総合教育会議のテーマを「情報社会を生き抜き心豊かに未来を切り開く力をつける教育について」と題して開催をさせていただきました。

初めに、長澤教育部長のほうから本市のICT教育の現状について、本市のICT機器等の整備状況等の報告、そしてまたそれらを利活用する状況について報告をしていただきました。

その後、山口小学校の税田校長先生、そしてまた筑山中学校の岩切校長先生のほうから、自校の取組について詳しく、また分かりやすく発表いただきまして、本当にありがとうございました。それぞれの発表の中で特徴的な取組を紹介していただき、私どもも大変参考になりました。ありがとうございました。

私がちょっと思いましたのは、やはり共通に感じたことですが、子どもに1人1台のタブレットをはじめ、ICT機器を活用した授業づくり、また総合的な学習、そういったことも含めて、情報モラルに関する教育も含めて、精力的に、また組織的に進めておられるなということが分かって、大変ありがたく思いました。お礼を申し上げます。

また、本日の総合教育会議について、全体的な視点から指導・助言をいただきました折居主幹指導主事に心からお礼を申し上げます。折居主幹指導主事のほうから2校の発表についても取組のよさ、また今後の課題解決に向けてのご指導をいただきましたことをお礼申し上げます。

また、今日提示していただきましたこの福岡教育事務所管内における授業改善の重点、この中で私もびっくりいたしました。従来の情報モラル教育の見直しはやっぱり必要であると。このデジタル・シティズンシップ教育の視点を付加した形で、これから子どもたちが主体的に社会に役立てるようなそういう情報教育、これがこれから求められるんじゃないかということを言われまして、私も本当はっといたしました。ぜひこれらをしっかり私たちはこれから身につけてやっていかなければならないと思った次第でございます。

会場の皆様方はどんな印象を今日持たれましたでしょうか。学校における情報教育は、コロナ発生の前から存在しておりましたけれども、コロナ禍の影響で学校が休校になったり、あるいは会社のテレワークなどが始まったりとすることで、生活環境や学習環境が大きく変化したこともあり、国の方針転換もあって情報化社会が一段と加速し、学校ではICT教育が急速に発展してきたと捉えてよろしいかと思えます。

我々教育委員会といたしましても、今後はこれまで以上に学校と連携を密にしながら、さらなる情報教育の推進に努力していきたいと考えております。

結びになりますが、本日の総合教育会議の中でたくさんの情報や解決のためのヒントや手段を提供していただき、有意義な会議になったのではないかと思います。どうかこれらの内容を学校や職場に持ち帰っていただき、自校のあるいは会社の情報教育の充実、ひいては筑紫野市の学校教育におけるICT教育が一人一人の子どもたちにとって心豊かに未来を切り開く力になります

ことを心から祈念しまして、少し長くなりましたけれども、本日の会議のお礼とさせていただきます。

これもちまして、令和4年度第1回筑紫野市総合教育会議を終わらせていただきます。本日は最後までご参加ありがとうございました。

○教育政策課長：以上で、本日の全行程を終了いたします。

皆様、ご起立ください。気をつけ。礼。直れ。ご着席ください。

本日もご出席の皆様、ありがとうございました。散会いたします。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。